

# シアトルだより- February 2017 Vol.11



2月は卒業シーズンですね。3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。こちらは2学期制で、9月から始まった1学期が終わり、2学期が始まりました。今年は例年になく積雪で、車社会のアメリカらしく道路状況で2度休校になりました。学区の裁量なのですが、ニュースによると州内ほぼ休校でした。



冬でプロスポーツはほとんどシーズンオフですが、この時期人気なのはアイスホッケーです。日本ではなじみがないですが、州内でも複数のプロチームがあります。動きが早くプレイが激しいので見ていて楽しいです。

さて学校についてです。小学校5年、中学校3年、高校が4年です。これは州ごとだけではなく学区にもよっても違います。小学校から高校まで基本的に学区で決まり、受験はありません。長女は現地の小学校に通っています。



毎日あるのは算数と英語、歴史と科学が日替わりで、他はコンピュータや体育、音楽などです。次女は現地の保育園。送り迎えのお父さんの割合は日本より多いように思います。



カミアック高校の朝は早く、1限はなんと7時20分から始まります。2000人以上の生徒が在籍するのでカフェテリアに収まりきらず、昼休みは生徒を半分に分けて2回あります。各先生が自分の教室を持ち、生徒は1日6時間常に教室移動して授業を受けます。必修科目は決まっていますが、その他選択科目として、演劇や映像、マーケティングや心理学、ロボット工学からヨガまで、レベルの高い科目が豊かです。どの教室もパソコン、プロジェクタ、スクリーンや生徒用パソコンがあり、IT環境が整っています。



職員の仕事も分担されています。生徒の進路に応じて科目を決めるのは、日本でいう担任の役割をしているカウンセラーです。それからセキュリティや出欠管理、生徒指導や成績管理、カリキュラムに施設管理と、それぞれ専門職員がいます。授業をする教員以外の実にさまざまな人々が学校で働いており、みんな仕事が終わればすぐに帰ります。それぞれの仕事分担が明確で、学校の業務がシステム化されており、仕事量と報酬が適切に見合っているように感じます。限られた人員で多くの仕事をカバーしている日本の現状を考えると、教育にしっかりお金をかけて必要なところに適切に投資できる環境を正直うらやましく思います。



ワシントン州日本語教師会のコンファレンスがありました。先生対象にワークショップを行い、日本語1の授業で行っている、文字や翻訳なしの会話練習の方法を発表しました。こちらでは高校で初めて外国語を学ぶので、日本語1選択生徒は大半が日本の中3にあたります。少し遅いように思いますが、意欲旺盛によく手をあげ発表し、学習開始半年なのに結構上手に話します。アメリカには大学受験がなく、基本的に高校の成績で大学が決まるので、指導する側もやりたい活動に絞ることができます。大きく異なる環境の中ですが、あと1か月、日本の学校で生かせるヒントを探したいと思っています。

